

科目名	東アジア経済発展論		
担当教員	金澤 孝彰		
対象学年		クラス	E1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	金1	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	標準履修年次 3・4年次		
科目名(英語表記)	Economic Development in East Asia		
授業の概要・ねらい	東アジア地域はこれまでいくつかの経済危機に直面しながらも経済発展をとげてきた。本講義では、こうした経済発展プロセスの把握を手始めに、東アジア地域の経済的ダイナミズムに焦点をあてる。また、将来的な東アジア地域統合や共同体の実現可能性を念頭におきつつ、現時点で東アジア地域が抱える経済構造問題やそれに付随する政治・社会問題についても考察していく。		
授業計画	本講義主要部分は指定教科書にもとづきおおむね下欄の内容にそって計15回進めていきたいと考えている。ただし、初回を除く毎回講義冒頭の約20～30分間は「日本経済新聞」のアジア経済関連紙面記事を配布したり、場合によっては録画DVD観賞によって、前回講義以降の一週間にあった東アジア経済に関しての時事的解説も行っていき、教科書を用いた本講義主要部分と関連付けていくものとする。		
	回	内容	
	1	概論(主に講義の進め方をめぐって)	
	2	東アジアの経済成長	
	3	工業化政策と経済発展	
	4	経済格差と所得格差	
	5	東アジアにおける国際的生産ネットワーク	
	6	東アジアにおける産業集積	
	7	国際金融環境と東アジア経済	
	8	東アジアにおける金融システム	
	9	東北アジアの経済発展モデル	
	10	東南アジアの経済成長経路	
	11	東アジアの移行経済	
	12	東アジアの経済統合	
	13	中国経済と東アジア	
	14	東アジア地域が抱える経済的課題	
15	総括		
到達目標	我が国周辺各国・地域の経済状況を理解することを通じて、混沌とする現在の世界経済情勢の理解に役立つ。		
成績評価の方法	期末試験の成績を主体とするが、その他、講義時に不定期的に出す課題の出来の善し悪しも評価の判断基準にする。		
教科書	三重野文晴・深川由紀子(編)『現代東アジア経済論』ミネルヴァ書房、2017年		
参考書・参考文献	西島章次・久保広正(編)『現代の世界経済と日本』ミネルヴァ書房、第5章(東アジアと日本) 『通商白書』(各年版)、経済産業省		
履修上の注意・メッセージ	全講義を休まず出席しておくことが望ましい。		
履修する上で必要な事項			
受講を推奨する関連科目	ワールドエコノミー、開発経済学、現代中国経済論、通商政策。とくに開発経済学の単位未修得者は今期開講分を履修しておくことが望ましい(：本講義にて使用する教科書では開発経済学で取り扱う章も含まれているため)		
授業時間外学修についての指示	「日本経済新聞」で国際面等での東アジア経済関連の記事を常日頃チェックする習慣をつけておくこと。		
その他連絡事項			
科目ナンバリング			